

## 主なご意見

No.	関係する章	意見等の概要
1	全	計画期間は H30～H32 年度だが、その間に法律が変わったら計画の内容も変わるのか。
2	第 1 章	厚生労働省が提示した「地域包括ケアシステム」では、「自助」「共助」「公助」に加えて、「互助」という概念が提示されている。千葉市の第 4 期地域福祉計画において、「互助」の記載は無いようだが、計画における「互助」の位置付けを教えて欲しい。
3	第 1 章	5 頁の地域福祉計画と他計画との関係を示したイメージについて、6 区を各々別囲みではなく一つの囲みにしたほうが、地域の全体の土台としての印象が強くなるのではないかと。
4	第 2 章	「WEB アンケート」について、回答の総数と年齢層を教えて欲しい。
5	第 2 章	毎回、違うやり方で行うと、データの信憑性が損なわれる恐れがあるので、可能であれば、決まったやり方、定点的な観測を行って欲しい。
6	第 2 章	市社協コミュニティソーシャルワーカーと社協地区部会ネットワーク委員とは何が違うのか。
7	第 2 章 第 6 章	生活支援コーディネーターの協議体のエリアと地域福祉計画における共助のエリアの関係性について教えて欲しい。
8	第 2 章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画のエリア設定として、地区部会エリアを用いるのはよいと思うが、社協地区部会が、地域の中核組織として、地域の様々な団体と連携して、活動状況の把握や活動の推進を行うことが出来るかどうか疑問である。</li> <li>・ また、第 8 章のイメージ図で、輪の真ん中に社協地区部会が記載されていることに違和感を覚える。実態としては、老人クラブ等の団体と同様に、輪を構成する団体であるように感じる。</li> <li>・ 事務局は、社協地区部会にどの程度体力があると考えているのか、またその位置付けについて教えて欲しい。</li> </ul>
9	第 2 章	社協地区部会の大きな問題点は、各自治会の協力が無いと連携が難しいということ。あくまで市民のためのものとして存続しているが、広報活動と並行しながら、自治会の皆さまにご理解いただきたい。地域振興課が大きな枠に入ってくるかと思うがどのように考えているか。
10	第 2 章	市の説明の際、地区部会中心に取り組むという話があった。団体名に関わらず、地域で連携を取ればよいという話だったが、地区部会が無い地域については、意見などを取っているのか？

No.	関係する章	意見等の概要
11	第2章	相談支援のプラットフォームの図は、他の相談支援機関との関係が分かり難いので、その関係も図に落とし込んでもらいたい。この事業の本部がどこにあるのかも分かり難い。
12	第3章	パブリックコメントは、件数が少ないと意味が無いし、計画がほぼ完成している段階だと、内容に反映されるような意見も出ない。 また、パブリックコメントの件数も公開して欲しい。
13	第3章	「地域包括ケアシステム」を補完するために地域福祉（地域の助け合い）を推進していくという理解でよいのか。
14	第4章	緑区大椎台の買い物支援の取組みについては、素晴らしいと思うが、これを区全体でやろうと思うと、財政的にも人材的にもとてももたない。 地域住民と行政が一緒になって、要支援者を支える体制を作って欲しい。
15	第4章	緑区大椎台の買い物支援に要する費用（運転手の人件費やガソリン代等）については、何処から出ているのか？
16	第5章	ボランティアにより地域で支えるということは尤もだと思うが、事故が起きた場合の責任問題について市がどのように支えていただけるのか。例えば、食事の提供での食中毒やアレルギー問題等が、移動支援では送迎の怪我をさせてしまったりすることもある。市は、バックアップについてどのように考えているか。
17	第5章	若葉区計画にある「わたしたちのまちの福祉を考える会（仮称）の設置」は、努力目標なのか、それとも必須になるのか。
18	第6章	社協コミュニティソーシャルワーカーは、各区において地域福祉の推進にあたっていただく役割を担う。地域課題は千差万別で専門的な大変難しく業務と思われるが、各区1人で大丈夫か？
19	第6章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援コーディネーターが昨年各区に2名ずつ配置されたが、地域のことを分かっておらず、会議に参加して勉強するだけであり、これでは実際に相談を受けられないのではないか。</li> <li>・また、日曜祝日にいないのも問題であり、現状の体制では、地域で一緒に問題を解決しようとする姿勢が見えない。</li> <li>・地域では、本当に人材（担い手）が不足している。本気で地域の問題を解決しようと思っているのであれば、きちんと人員を配置してほしい。</li> </ul>
20	第6章	発言者の地域の高齢化率は、50パーセント。解決の努力をしているが、今後、若い人が地域のために動いてくれるか心配がある。教育をぜひ頭に入れて指導して欲しい。

No.	関係する章	意見等の概要
21	第6章	<p>住みたい県第一位が発表されました。鳥取県だったと思います。独居老人の方々が「私達はひとり住まいです。でもひとりぼっちではない」と話していました。それは、みなさんが集まって話しをしたりお茶を飲んだりしてつながりをもっています。共助を進めるにも近くの方々が集まる場所を確保して頂きたいと思います。身近なところから進めてほしいです。</p>
22	第6章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の市民説明会の参加者は高齢者ばかりで、私に関わっているボランティアのメンバーもほとんどが高齢者である。</li> <li>・ ますます高齢化が進む、この地域の5年、10年後が不安である。</li> <li>・ 現役世代の人が積極的にボランティアに参加出来る仕組みを考えて欲しい。</li> <li>・ また、地域福祉においても、必要のないものははっきりと切り捨ててもよいと考える。</li> </ul>
23	第6章	<p>“支え合い”という名前どおり、共助をしていくためには、ボランティアはとても大きな役割をになっていると思います。</p> <p>しかし、現実では、ボランティアの数が増えているようには思えません。地域活動を何かすると、同じメンバーが集まってくるのでその人達も段々、疲弊しているように感じます。</p> <p>地域福祉計画自体はいいと思いますが、それを実現するためにも、幅広く地域住民が参加出来るように工夫して頂きたいです。</p>
24	第6章	<p>・ 支えあい活動を行っている。バリアとなっているのは、必要な情報が入ってこないこと。ボランティアのやる気があっても、個人情報保護のため、止まってしまう、やる気も削がれてしまう。必要と思われる情報がタイムリーに入らないと、《仕組み4》「必要な情報が行き渡り、気軽に相談しあえる仕組み」のような体制が実際できるのか。情報をどう活用していくかということについて、行政が検討してほしい。これが地域の現状である。</p>
25	第6章	<p>公助のサービス類型の一つである「市民意識の醸成」とは、具体的に、どのようなことか。</p>
26	第6章	<p>2、3年前に誉田駅と土気駅間の新駅を作るという案が出されたと認識しているが、話が進んでいないようである。駅が出来て、周りに商業施設等が出来て人が増えれば、障害者福祉サービスも良くなり、障害者の社会参加も進むと思う。また、障害者施設が出来れば、買い物支援のように、行政が負担するのではなく、民間の力を借りて地域福祉を推進する方法も取れると思う。</p>
27	第8章	<p>計画は緻密に出来ていてよいと思う。ただ、重要なのは計画の実施・推進であり、事務局はどう考えているのか。</p>